

第28回（令和5年度第1回） セーフコミュニティ 防災対策委員会

《会 議 次 第》

日時：令和5年4月27日(木) 16:00～

場所：久留米市役所 301会議室

1. 開会

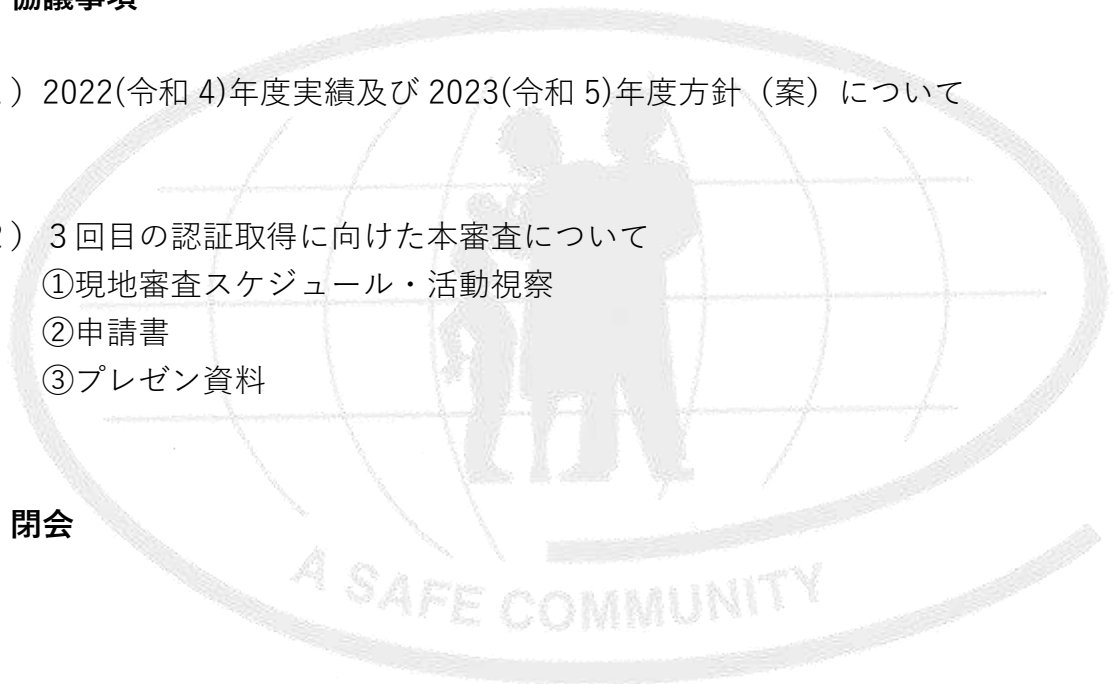
2. 報告事項

- (1) 令和5年度の主なスケジュールについて
- (2) 合同対策委員会について

3. 協議事項

- (1) 2022(令和4)年度実績及び2023(令和5)年度方針（案）について
- (2) 3回目の認証取得に向けた本審査について
 - ①現地審査スケジュール・活動視察
 - ②申請書
 - ③プレゼン資料

4. 閉会



久留米市セーフコミュニティ防災対策委員会 委員名簿

	団体名等	役職等	氏名
委員長	久留米市校区まちづくり連絡協議会	三潞校区	古賀 文雄
副委員長	福岡県防災士ネットワーク		矢野 彰
委員	久留米市民生委員児童委員協議会	会長	諸永 和海
委員	久留米警察署（警備課）	警備課長	中野 竜馬
委員	久留米市消防団	本部部長	高木 真治
委員	（社福）久留米市社会福祉協議会 （地域福祉課）	課長	漆原 数弥
委員	久留米広域消防本部（救急防災課）	課長補佐	中村 慎一
委員	久留米市健康福祉部地域福祉課	課長	藤原 誠二
委員	久留米市総務部防災対策課	課長	佐野 理

令和5年度年間スケジュール（案）

業 務	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
SC推進組織			● ①5/30 推進協議会 ● R4実績R5方針 ● 本審査に向けて ● プレ資料 ● 申請書 ● ①本部会議 ● ①調整会議			(本番) ②推進協議会								
対策委員会	①対策委員会 ・R4実績R5方針 ・本審査に向けて ・プレ資料 ・申請書					7月本番直前 委員長リハ	(本番) ②対策委員会 ・委員長選出	③対策委員会 ・講評を踏まえた対応 ・取組推進に向けた協議 など						
外傷等動向調査委員会		①外傷委員会 ・本審査について ・プレ資料 ・申請書			7月本番直前 委員長リハ	(本番) ②外傷委員会								
啓発		シリーズ6(DV) 4/21 YouTube 5/1 広報久留米 5/21 SC通信		シリーズ7(児童) 6/21 YouTube 7/1 広報久留米 7/21 SC通信		シリーズ8(学校) 8/21 YouTube 9/1 広報久留米 9/21 SC通信		シリーズ9(高齢者) 10/21 YouTube 10/1 広報久留米 10/21 SC通信		1/1 広報久留米 (認証取得)				
				SC標語募集		8/4水の祭典				●SC標語表彰式				
申請書	3月 [各事務局] ・加筆修正	JISCとの調整期間	4月末 日本語版 確定	5月 英訳	6月 申請書 提出									
プレゼン資料	[各事務局] ・加筆修正	JISCとの調整期間	5月末 日本語版 確定	英訳	7月 日本語版・ 英訳版 完成									

現地審査

認証式
及び
フェスタ

SC標語募集

●SC標語表彰式

8/4水の祭典

合同対策委員会についての振り返り（R5.3.24 開催）

■概要

日時：令和5年3月24日13:30～15:00

会場：久留米シティプラザ 5階 大会議室

参加者：48人

内容：（１）報告：これまでのセーフコミュニティ活動の取組と今後の展開について
（２）ワークショップ

もっと安全で安心な久留米を作るために、セーフコミュニティを浸透させる
→セーフコミュニティを伝えるために、私たちができることは？

（１）これまでのセーフコミュニティ活動の取組と今後の展開について

セーフコミュニティの目的 = 久留米の安全・安心の向上



- 2回の認証取得でセーフコミュニティが定着し、対策委員会の取組を通して、久留米の安全安心は向上。
- 3回目の認証取得を機に、もっとセーフコミュニティを浸透させ、市民一人一人が安全安心を心がける町にしたい。
- しかし、これまで取り組んできたSCの広報啓発活動では、SCの浸透は困難（R3のSC認知度：23%）。
- また、R3年度のSC実態調査では、多くの人が安全・安心の活動に取り組みたいと考えているが、行動できていない結果も

もっと安全で安心な久留米

◆多くの人がセーフコミュニティに参加する町

◆市民一人一人が安全安心を心がける町

- SCを浸透させ、安全・安心に取り組む人を増やすためには、できるだけ多くの情報を伝え続けることが大切

「私たちみんなの力で、セーフコミュニティを伝え続けていきましょう！」

(2) ワークショップ意見まとめ

個人で

- 家族や友人、子どもの友達、近所の人に話す
- 飲み会のときに話題に出してみる
- 出前講座を紹介する
- 関連するフェイスブックをシェアする、
- SNS（フェイスブック、インスタグラム）に SC について投稿する
- くるっぱの反射材をバッグに付けて、会った人に SC の話をする など

組織・団体の活動で

- 所属する団体で実施する活動、講演会・セミナーで SC についての話を入れる、紹介する
介護教室、防災活動、防災教室、救急講習会、児童虐待防止の講演など
- 出席する様々な会議で SC の情報発信し、他の団体組織に知ってもらう、働きかける
- 仕事で高齢者宅を訪れたときに、SC（転倒予防）についてアドバイスをする
- いきいきサロンの中で何ができるか話し合う
- 仕事などで出向いたところで SC の話をしてみる
- 自分の所属団体と関係がある施設に SC のチラシやパンフレットを置く
- 自分の団体のイベントや広報活動の際に、SC について啓発（チラシ、ブース、展示）
- 車にステッカーを貼る
- SC のベストを着て仕事をする
- 職場に SC のぼり旗をたてる
- 一緒に SC のキャンペーンを行う など

組織・団体の内部で

- 所属する団体の内部研修で SC の話をする、出前講座を実施する
- 職場の朝礼や会議、研修の場で SC について説明する、何ができるか話し合う、活動状況を報告する
- PTA や自治会の会議、活動の際に SC について話す
- 校区だよりに SC について載せる
- 掲示板にポスターを貼る
- 職員に SC について、SC の取り組みについて話をする
- 職員に家族に SC について話すよう依頼する
- 介護事業者を対象とした研修で SC について話す
- 主任児童員に周知する など

SC ロゴや記事を載せる

- 職場のメールに SC を加える
- 自分の団体で作る啓発チラシに SC のマーク、SC 動画の QR コードを入れる
- 自分の団体で発行する広報誌や HP に SC の記事を載せる
- 所属する組織が行う情報発信に SC を盛り込む
- 学校配布物に SC について記載する
- 職場で使用する封筒に SC マークを入れる など

他にも

- 学生が参加するメッセージ動画を作る
- 入学式や卒業式で、子どもや親に話す
- 地域ケア会議で SC 目線のアドバイスをする
- SC を校区全体で取り組む
- 全世界的な取り組みであることを SC のグッズに記載する
- SC の歌を作る
- 事業所に一つずつ SC の PR をしてもらう
- 学校で子どもたちに SC の広報について考えてもらう
- 学校でワークショップを実施する
- SC と、カフェや病院、薬局とコラボする
- 久留米独自の共通の SC ロゴ・マークを作る
- Twitter でハッシュタグを付けて呟き、他市の SC と繋がる
- 事故事案が発生した直後、当事者意識が残っているうちに SC の講習会などを実施する
- 事務局が収集している統計数値を提供する
- 学校のトイレの扉を活用して安全のために必要なことを貼る

など

団体の集まり等では、是非、出前講座をご活用ください。出前講座に比べ、短時間で視聴できる動画の活用についてもご検討ください。

この他、団体の広報誌やチラシ、HPなどに掲載するSCロゴのデータや掲載内容など、「セーフコミュニティを伝えるためにできること」について、安全安心推進課にご相談いただければ幸いです。どんなことでもご相談ください。

久留米市協働推進部安全安心推進課 担当：豊福、岡、浦部、古賀
〒830-8520 久留米市城南町 15-3 TEL：0942-30-9094 FAX：0942-30-9706
Email：anzen@city.kurume.lg.jp

防災

署内での教養機会に出前講座をお願いしてみてもどうかと思っています

市の様々な取り組みがSCと関連していることを意識して仕事をやりたい

業務がSCの取組の一つであることをPRできます

校区の防災訓練を定期的実施する（図上訓練や資機材の活用訓練などを盛り込む）

セーフコミュニティへの参加の動機づけを深くするため事故事案が発生した地域へ参加を呼びかけて、当事者意識が残っている時に講習会などを実施する

避難訓練所に紹介する

市役所の仕事で（HP、出前講座、地域人材育成）発信する

校内の危険なところの定期的な見守り実施

定期的な防災訓練を企画し実施している

要支援者の避難の手伝い

児童の登下校時の見守りを、隙間なくする。

協議会といった会議の中でもSCに低の取組を紹介し、理解と協力を得ることができるのではと思っています

交通安全県民運動などの行事をSCの皆さんと合同で行ってみたいです

要支援者の避難の手伝い

SNS（フェイスブック、インスタグラム）に投稿する

SNSで発信する

キャンペーンや広報活動を共同してやってみたいと思います

キャンペーンや広報活動を共同してやってみたいと思います

家族や親戚にSCのことを話すことができます

個人で備蓄をする

3. 協議事項（1）

防災対策委員会

【地域防災力の向上】8－① 定期的な防災研修・訓練・啓発の実施								
課題	客観的課題	・多くの市民が災害に対する不安感を抱えている ・不安を感じている一方で、家庭内の対策が不十分である ・共助の取り組みには地域差があり、住民への周知・浸透が十分でない						
	主観的課題	災害時には、防災関係機関だけでは対応が困難である						
目標	防災研修・訓練を通じた市民の防災意識の高揚 (研修・訓練回数の増加、自主防災活動に関する認知度増加)							
内容	地域住民だけでなく防災関係機関・医療機関・各団体・地元企業を巻き込んだ定期的な防災研修・訓練及び啓発を実施する。また、既存の行事に防災の視点を取り入れた研修・訓練を実施する。							
対象者	市民							
実施者	市民、校区コミュニティ組織、民間企業、医療機関、防災関係機関、市など							
対策委員会の関わり	・セーフコミュニティの関連のイベント参加、啓発物配布 ・各委員が所属団体内において研修等の実施							
令和4年度の実績及び改善した点等	【実績】 ・緊急告知防災ラジオ等による情報伝達訓練 (6月12日、1月17日 全校区訓練参加) ・防災とボランティア週間において 防災啓発パネルを展示 ・出前講座・自主防災訓練の実施回数 52回 参加者 2,443人 【2023.3月末時点】 【改善点】 従来からの地域に対する啓発だけではなく、 外国人(2回)、視覚・聴覚・療育の障害を持つ 人を支援する団体などと連携した訓練の実施により、災害弱者への対応が一歩進んだ。 外国人への防災訓練の様子 							
令和5年度の方針及び課題等	<u>自分が住んでいる地域の災害リスクに応じた避難行動の周知</u> 防災チャットボット等を活用し、土砂災害や浸水など自分が住んでいる地域がどの災害でどのくらいの危険があるのかを把握し、正しい避難行動がとれるように啓発する <u>防災対策委員会の委員が所属する団体での啓発</u> 安全で安心なまちづくりに協働で取り組むため、委員が所属する団体でのイベントへの参加やチラシの配布をおこなう							
指標	内容	単位	2018	2019	2020	2021	2022	
活動指標	① 防災研修・訓練の実施回数	回	113	159	25	40	52	
	② ①の参加者数	人	6,159	8,216	886	1,603	2,443	
【短期】認識・知識	「自主防災活動を認識している」人の割合 [市民意識調査(3年毎)]	%	—	—	—	19.1	—	
【中期】態度・行動	食料備蓄等の対策を講じている人の割合 [市民意識調査(3年毎)]	%	—	—	—	66.5	—	
【長期】状況	水害やがけ崩れ・山崩れの防止などの 防災対策及び総合防災訓練の充実 に満足している人の割合[市民意識調査]	%	37.9	38.2	—	40.5	集計中	



※新型コロナウイルス感染の状況から、平常とは異なる環境のため令和2年度は市民意識調査の実施を延期

【地域防災力の向上】8-② 防災に精通しているリーダーの育成								
課題	客観的課題	多くの市民が災害に対する不安感を抱えている						
	主観的課題	・災害時には、防災関係機関だけでは対応が困難である ・自助・共助の取り組みには、地域住民の先頭に立ち、活動を推進する防災リーダーの存在が必要						
目標		各校区の自主防災組織における防災士や防災リーダーの役割を明確にし、地域での活躍できる環境を整える。						
内容		組織的な活動を継続的に行うため、防災技術等の高いリーダーを育成する。また、地域にいる消防関係者や防災士などを積極的に登用する。						
対象者		市民						
実施者		市民、校区コミュニティ組織、民間企業、医療機関、防災関係機関、市など						
対策委員会の関わり		各種研修会における企画・運営に対策委員会の委員が参画。						
令和4年度の実績 及び 改善した点等		【実績】 ・防災リーダー養成研修会 平日・休日コースを設けて実施 74名受講（男性：45名、女性：29名） ・防災スキルアップ研修会 まちづくり連絡協議会や各校区の協力のもと 3年ぶりに対面で開催 ・地域の防災士養成研修 1月28日、29日実施 30名受講 ・防災士養成数：157名 ・防災リーダー養成数：298名 【改善点】 ①災害対応において必要となる多様な視点を生かすために、今年度の防災士、防災リーダーの受講者の推薦にあたっては、特に女性の方を積極的にご推薦いただいた。その結果、防災士は受講者30名の内7名、防災リーダーは受講者74名の内29名の女性の方に受講いただく事ができた。 ②防災士や防災リーダーと連携し、校区のイベントや市の出前講座を実施することができた。  防災リーダー研修会の様子						
令和5年度の方針 及び 課題等		<u>防災リーダーが活躍できる環境の整備</u> ・各校区の自主防災組織における防災士・防災リーダーが地域で活躍するためのスキルアップや環境の整備 ・市と防災士、防災リーダーが連携した啓発活動の実施（出前講座の協働など）						
指標		内容	単位	2018	2019	2020	2021	2022
活動指標	① 防災リーダー養成研修の実施回数（平成31年度新規事業）		回	—	2	2	2	2
	② ①の養成者数（累計）		人	—	59	145	224	298
【短期】認識・知識		「自主防災活動を認識している」人の割合 [市民意識調査(3年毎)]	%	—	—	—	19.1	—
【中期】態度・行動		防災リーダーによる地域主体の研修等の実施回数	回	—	1	—	—	—
【長期】状況		水害やがけ崩れ・山崩れの防止などの防災対策及び総合防災訓練の充実に満足している人の割合[市民意識調査]	%	37.9	38.2	—	40.5	集計中

※新型コロナウイルス感染の状況から、平常とは異なる環境のため令和2年度は市民意識調査の実施を延期

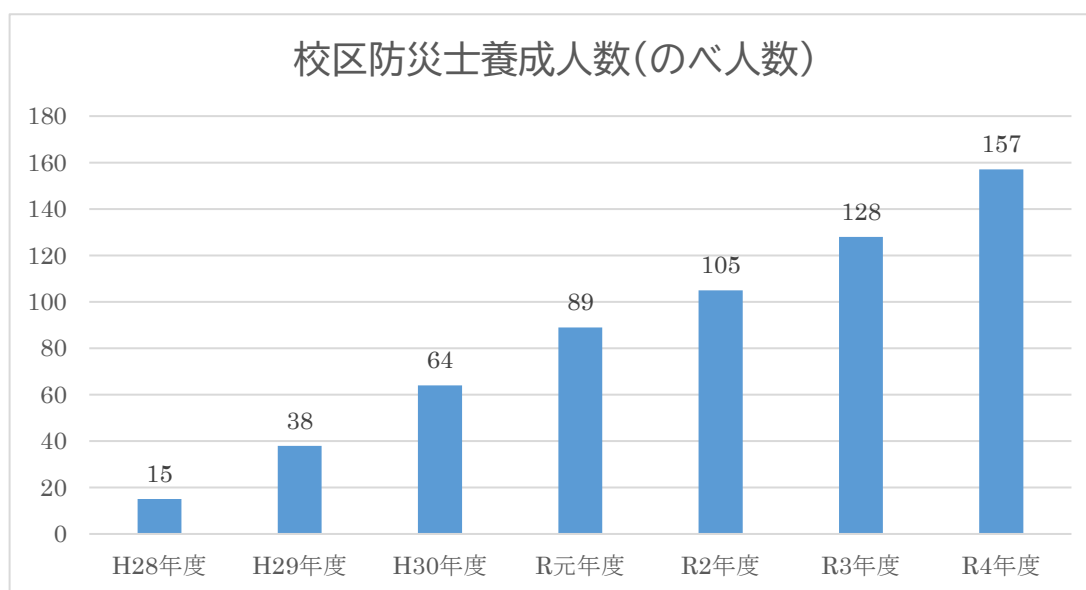
【地域防災力の向上】8ー③ 避難行動要支援者名簿の登録促進								
課題	客観的課題	大規模災害時は、自力避難が困難な高齢者や障害者などが犠牲になりやすい						
	主観的課題	・災害時には、防災関係機関だけでは対応が困難である ・避難行動要支援者の把握ができなければ支援がいき届かない						
目標		・避難行動要支援者名簿登録制度の認知度を高める ・避難行動要支援者名簿登録者数を増やす						
内容		名簿登録推進のため各団体が保有している情報を最大限活用し、避難行動要支援者名簿の登録対象となる方へ、積極的な情報提供を行う。						
対象者		【避難行動要支援者】 次に掲げる者のうち、在宅の者であって、災害が発生し、また、災害が発生する恐れがある場合に自力又は家族の協力による避難が困難である者とする ア 要介護3以上の認定を受けている者 イ 身体障害者手帳1級又は2級の交付を受けている者 ウ 療育手帳Aの交付を受けている者 エ 精神障害者保健福祉手帳1級の交付を受けている者 オ 要配慮者であって、名簿情報の避難支援等関係者への事前提供に同意する者 カ 平成31年1月末現在において、災害時要援護者名簿に登録している者						
実施者		市民、校区コミュニティ組織、民間企業、医療機関、防災関係機関、市など						
対策委員会の関わり		・各委員の所属団体における名簿登録の促進への協力 ・セーフコミュニティ関連の啓発イベントでの周知活動への協力						
令和4年度の実績及び改善した点等		【実績及び改善点】 1 各校区の名簿差し替え時（5月）に登録促進の協力を依頼 2 防災リーダー研修会や校区の説明会等で制度を説明し、登録促進の協力を依頼 3 新規名簿登録対象者等への登録案内の送付（約200件）						
令和5年度の方針及び課題等		【課題】・名簿登録制度及び名簿の活用方法の周知 ・避難行動要支援者の支援体制構築 【方針】・避難行動要支援者名簿登録制度及び名簿の活用方法の周知・啓発 ・名簿未登録の避難行動要支援者に対する登録促進 ・名簿を活用した図上訓練等により、避難行動要支援者の支援体制を構築						
指標		内容	単位	2018	2019	2020	2021	2022
活動指標	① 避難行動要支援者名簿制度の説明実施回数		回	—	67	67	64	81
	② ①の参加者数		人	—	1,326	858	1,053	1,448
【短期】認識・知識		避難行動要支援者名簿の認知度 [SC実態調査]	%	—	—	—	14.4	
【中期】態度・行動		避難行動要支援者名簿の登録率	%	49.86	50.11	48.08	40.56	38.09
【長期】状況		水害やがけ崩れ・山崩れの防止などの防災対策及び総合防災訓練の充実に満足している人の割合[市民意識調査]	%	37.9	38.2	—	40.5	集計中

【地域防災力の向上】8－④ 避難行動要支援者個別支援計画の充実							
課題	客観的課題	大規模災害時は、自力避難が困難な高齢者や障害者などが犠牲になりやすい					
	主観的課題	・災害時には、防災関係機関だけでは対応が困難である ・避難行動要支援者を支援する人や避難経路・計画等が具体的に決まっていない地域がある					
目標	地域の避難支援等関係者による避難行動要支援者の情報の共有と個別支援計画の具体化						
内容	災害時の避難行動要支援者支援の実効性をより高めるために、図上訓練などを通じて個別支援計画の作成・具体化を行い、合わせて地域における共助の仕組みづくりを推進する。						
対象者	【避難行動要支援者】 次に掲げる者のうち、在宅の者であって、災害が発生し、また、災害が発生する恐れがある場合に自力又は家族の協力による避難が困難である者とする ア 要介護3以上の認定を受けている者 イ 身体障害者手帳1級又は2級の交付を受けている者 ウ 療育手帳Aの交付を受けている者 エ 精神障害者保健福祉手帳1級の交付を受けている者 オ 要配慮者であって、名簿情報の避難支援等関係者への事前提供に同意する者 カ 平成31年1月末現在において、災害時要援護者名簿に登録している者						
実施者	市民、校区コミュニティ組織、民間企業、医療機関、防災関係機関、市など						
対策委員会の関わり	図上訓練実施の際等に各委員の所属団体内において訓練等への参加協力						
令和4年度の実績及び改善した点等	【実績】 ・名簿を活用した図上訓練実施校区数 19 校区 ・未実施であった2校区での図上訓練実施（46校区／46校区で実施完了） ・災害時マイプラン（個別避難計画）の作成 出前講座：8回180件、地域による作成55件 ・人工呼吸器が必要な重症心身障害者の避難のため非常用電源がある公共施設の調査・調整 【改善点】 ・障害者団体主催イベントにおいて、団体と協働し参加者の災害時マイプランを作成（説明動画も作成） ・大城校区民生委員による校区内要支援者の災害時マイプラン作成の取組み  マイプラン作成の様子						
令和5年度の方針及び課題等	【課題】 ・各校区における継続的な図上訓練実施 ・希望する避難行動要支援者の災害時マイプラン作成 【方針】 ・各校区における継続的な図上訓練実施の働きかけの強化 ・地域の避難支援関係者や福祉専門職、市社協などと連携したマイプラン作成 ・移動可能な非常用電源としてポータブル蓄電池の調達						
指標	内容	単位	2018	2019	2020	2021	2022
活動指標	① 名簿を活用した図上訓練実施校区数（46校区中）	校区	14	15	9	9	19
	② 名簿を活用した図上訓練実施回数（年毎）	件	14	16	16	13	28
【短期】認識・知識	図上訓練で個別支援の認識を高め、計画充実に取り組んだ参加者数	人	765	936	528	447	1,140
【中期】態度・行動	継続的な図上訓練実施校区数（2年に1回以上）	件	14	20	18	11	20
【長期】状況	水害やがけ崩れ・山崩れの防止などの防災対策及び総合防災訓練の充実に満足している人の割合[市民意識調査]	%	37.9	38.2	—	40.5	集計中

防災対策委員会

重点取り組み項目	No	具体的施策名
地域防災力の向上	8-①	定期的な防災研修・訓練・啓発の実施
	8-②	防災に精通しているリーダーの育成
	8-③	避難行動要支援者名簿の登録促進
	8-④	避難行動要支援者個別支援計画の充実

ア. 成果〈数値で表せるもの〉 【令和５年３月末時点】



イ. 成果〈数値で表せないもの〉

●校区の防災士・防災リーダー等が主体となっておこなった啓発

津福校区では、第7回となる津福校区防災訓練を実施しました。令和4年度は津福小学校の体育館や、防災拠点となっている津福公園を使って、1泊2日の防災宿泊体験をしました。参加した関係機関との連携により、本訓練を通じて日頃の準備、備えの重要性、住民と校区が一体となり、もしもの災害時でも津福校区が一致団結して対応できることを確認しました。参加者した親子は、今回の防災訓練から防災の重要性、今後の災害に対する心構えができたと話していました。



ウ. 令和4年度の取り組みで最も成功した事

●防災士・防災リーダーの養成

災害対応における様々なニーズに対応するためには、自主防災組織における政策・方針決定や避難所の運営に対する多様な視点が重要となります。

そのため、校区からの受講者の推薦にあたっては、女性や多様な世代の方などの積極的な推薦をお願いしました。今年度の防災士、防災リーダーの受講者の推薦にあたっては、特に女性の方を積極的にご推薦いただきました。

その結果、防災士は受講者30名の内7名、防災リーダーは受講者74名の内29名の女性の方に受講いただく事ができました。また、今年度は女性のみではなく、人材の多様性が必要である事から、受講案内を女性防火クラブや各種団体にも実施しました。



エ. 令和4年度で最も積極的に取り組んだ活動

●災害時要援護者への防災啓発

災害時に自力での避難が通常の者より難しく、避難行動に支援を要する外国人や障害者の方へ防災訓練や出前講座を実施しました。出前講座では、視覚障害者の方が特に災害に対して普段から何をどのように備えておくべきかを紹介しました。

また、備蓄食品を実際に食べてもらい、保存食の紹介もおこないました。



オ. 分野横断的に行っていること

- ・防災対策課、地域福祉課、久留米広域消防本部による自主防災研修
- ・防災対策課、地域福祉課による避難行動要支援者名簿を活用した図上訓練
- ・久留米市社会福祉協議会と久留米大学ボランティアサークルとの連携(行政と地域の協働)

カ. 今後の方向性や取り組みを進める上での課題

8-① 定期的な防災研修・訓練・啓発の実施

幅広い世代への啓発

自分が住んでいる地域の災害リスクに応じた避難行動の周知

8-② 防災に精通しているリーダーの育成

各校区で養成した防災士、防災リーダーが地域で活躍するスキルや環境が整っていない

8-③ 避難行動要支援者名簿の登録推進

名簿登録制度及び名簿の活用方法の周知

避難行動要支援者の支援体制構築

8-④ 避難行動要支援者個別支援計画作成

各校区における継続的な図上訓練実施

希望する避難行動要支援者の災害時マイプラン作成

防災対策委員会

具体的施策		令和5年度取り組み方針
8-①	定期的な防災研修・訓練・啓発の実施	<u>自分が住んでいる地域の災害リスクに応じた避難行動の周知</u> 防災チャットボット等を活用し、土砂災害や浸水など自分が住んでいる地域がどの災害でどのくらいの危険があるのかを把握し、正しい避難行動がとれるように啓発する <u>防災対策委員会の委員が所属する団体での啓発</u> 安全で安心なまちづくりに協働で取り組むため、委員が所属する団体でのイベントへの参加やチラシの配布をおこなう
8-②	防災に精通しているリーダーの育成	<u>防災リーダーが活躍できる環境の整備</u> ・各校区の自主防災組織における防災士・防災リーダーが地域で活躍するためのスキルアップや環境の整備 ・市と防災士、防災リーダーが連携した啓発活動の実施（出前講座の協働など）
8-③	避難行動要支援者名簿の登録促進	<u>・避難行動要支援者名簿登録制度及び名簿の活用方法の周知・啓発</u> <u>・名簿未登録の避難行動要支援者に対する登録促進</u> <u>・名簿を活用した図上訓練等により、避難行動要支援者の支援体制を構築</u>
8-④	避難行動要支援者個別支援計画の充実	<u>・各校区における継続的な図上訓練実施の働きかけの強化</u> <u>・地域の避難支援等関係者や福祉専門職、社会福祉協議会などと連携した災害時マイプラン作成</u> <u>・移動可能な非常用電源としてポータブル蓄電池の調達</u>